

2021年コミック市場(紙+電子)、10.3%増の6,759億円 過去最高を更新、出版市場におけるシェア4割超える 紙は2.3%減、電子は20.3%増

出版業界の調査研究機関である(公社)全国出版協会・出版科学研究所(所在地:東京都新宿区 理事長:浅野純次)は2月25日、『出版月報』2月号にて2021年(1~12月期累計)のコミック市場(推定販売金額)を発表しました。紙と電子を合わせたコミック市場は前年比10.3%増の6,759億円と、前年に続き2年連続で過去最高を更新。出版市場におけるコミック(紙+電子)のシェアも40.4%と初めて4割を超えました。内訳は紙のコミックス(単行本)とコミック誌を合わせた販売金額が同2.3%減の2,645億円、電子コミックが同20.3%増の4,114億円。

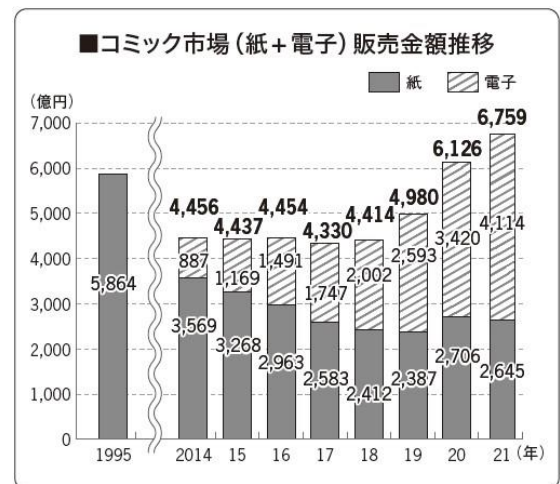
□ 紙コミックスは0.4%増の2,087億円と大健闘

紙のコミックスの推定販売金額は前年比0.4%増の2,087億円、コミック誌は同11.0%減の558億円。紙のコミックスは、前年、巣ごもり需要のなか『鬼滅の刃』(集英社)が大ブームとなっていました。21年も『呪術廻戦』(同)、『東京卍リベンジャーズ』(講談社)が大ブレイクしたほか、マンガアプリやWeb連載されている作品でも新たなヒットが生まれており、前年から微増となりました。一方コミック誌は人気作品の最終回掲載号や漫画家の追悼号、人気コスプレイヤーのグラビアなど単発で売れる号はあるものの、3年連続二桁減と、依然厳しい状況が続いています。

□ 電子は20.3%増の4,114億円、4千億円突破

電子コミック市場の推定販売金額は前年比20.3%増の4,114億円となり、初めて4千億円を突破。前年コロナ禍の自粛生活で拡大した新規ユーザーがそのまま定着して電子コミックを購入。さらに「縦スクロールコミック」がマンガを読んでこなかった新たなユーザーを掘り起こしていることもあり、2割ものプラスとなりました。紙でも売れている少年向けのヒット作品や女性向けの異世界作品が売れ筋となっています。違法海賊版サイトのアクセス数は増加していますが、代表的サイト「漫画BANK」が閉鎖されるなど業界団体の取り組みが一部成果を上げています。

※電子出版市場規模は、読者が支払った金額を推計したものです。広告収入は含まない。



■コミック市場全体(紙版&電子)販売金額推移 (単位:億円)

	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	前年比
コミックス	2,256	2,102	1,947	1,666	1,588	1,665	2,079	2,087	100.4
紙版コミック誌	1,313	1,166	1,016	917	824	722	627	558	89.0
小計	3,569	3,268	2,963	2,583	2,412	2,387	2,706	2,645	97.7
電子コミック(電子コミック誌含む)	887	1,169	1,491	1,747	2,002	2,593	3,420	4,114	120.3
合計	4,456	4,437	4,454	4,330	4,414	4,980	6,126	6,759	110.3

<本件に関するお問い合わせ> ※本レポートの詳細は、『出版月報』2022年2月号(頒価2,200円)に掲載しています。

公益社団法人 全国出版協会・出版科学研究所 担当:柴田・水野

〒162-8710 東京都新宿区東五軒町6-24 TEL 03-3269-1379 FAX 03-3266-1855

<https://www.shuppankagaku.com>